

I 主に信頼されたアブラハム。主は御心を彼に示される。「わたしがしようとしていることを、アブラハムに隠しておくべきだろうか」：17。主は、アブラハムを「わたしの友」（イザヤ41：8）と呼ばれた。主は、彼を主の友として信頼され、御心を示された。主のしもべである私達も、主イエスによって「友」と呼ばれ、親しい交わりをして下さる。「わたしがあなたがたに命じることをあなたがたが行うなら、あなたがたはわたしの友です。…わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです」（ヨハネ15：14, 15）。御心を示された目的＝主がアブラハムにご自身の御心を示されたのは、主のご計画を知らせ、その御計画の中で彼を用いようとされたから。なぜ彼に示されたのか。

①主がアブラハムに約束された約束が成就する為。つまり「アブラハムは必ず大いなる強い国民となり、地のすべての国々は、彼によって祝福される」：17, 18。アブラハムが主の祝福によって強い国民となるのは、それ自体が目的ではなく、そのことによって地のすべての国々が祝福されるためである。主が彼に御心を示されたのは、彼を通して地のすべての民が御心を知るようになるためである。そのためには、彼と彼の子孫は預言者（神の御言葉を預かり語る人）として主の御言葉を世界に宣教すると共に、祭司として地のすべての国々のためにとりなしをする使命が与えられている。②アブラハムがその子孫に主の道を守らせるため。「わたしが彼を選び出したのは、彼がその子らと、彼の後の家族とに命じて主の道を守らせ、正義と公正とを行わせるため」：19。つまり、アブラハムは諸国民に祝福を伝える為だけではなく、自分の子孫が主の御言葉に従った生活をし、神に祝福された「神の民」を形成するために選び出された。新約の御言葉に通じるが、「世界宣教」と「教会形成」こそがアブラハムの使命だった。現代の教会の使命も同じ。「あなたが行って（世界宣教）、あらゆる人々を弟子（整え）としなさい（教会形成）。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしは命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい」（マタイ28：19, 20）。

II 主のさばきの宣告。主は、「ソドムとゴモラの…罪は非常に重い」ので、彼らの罪の実態を調査する為にそこに行くと言われた。ソドムとゴモラの罪を放置しておくことはできない。

1. 主のしもべ、祭司アブラハム。：22—33。主の前に立ち続けるアブラハム。旅人の中の二人はソドムの方へ進んで行った。しかし「主はしばらくアブラハムのところにとどまられた。そしてアブラハムは「まだ、主の前に立っていた」：22。彼はソドムに対する主のさばきの宣告を聞いた時、主の前を去ることが出来なかった。彼は主の前に立ち続けて、ソドムとゴモラの為に必死の執り成しをする。2. 執り成しの祈りの根拠。第一は、主の義。ソドムとゴモラの罪は大きく、彼らの側に救われるべき根拠はなかった（実は私達も）。またアブラハムは、自分が主に従って来たことを根拠として執り成しているのでもない。彼は、主ご自身と主のご性質、「主の公義」を根拠とした。「あなたはほんとうに、正しい者を、悪い者といっしょに滅ぼし尽くされるのですか」：23。そのようなことを「あなたがなさるはずがありません」：25。第二の根拠は、主のあわれみである。「その中に五十人の正しい者のために、その町をお赦しにならないのですか」：24。アブラハムは、主のあわれみによってこの五十人の故に町全体

を救って下さるように求めている。私達の執り成しの祈りの根拠も、この主の義と主のあわれみである。私達は、主のさばきが正しい事を心から認めるべき。と同時に、主が大いなるあわれみの故に人の罪を赦して下さる事を信じて、人々の救いの為に執り成して行くべきである。私達も、多くの人々の執り成しの祈りが用いられて主を信じ、洗礼を受け、今も信仰が続いている。感謝！ 2. アブラハムの祈りの姿。彼の祈りの姿を見ると、第一に彼の中に滅びる人への愛を見る事ができる。彼は、滅びる人に対して無関心ではられない。彼は何とかして滅びる人達が救われるように祈った。第二の特徴は、彼の謙遜である。「私はちりや灰にすぎませんが」：27と告白している。彼は自分の義に頼ることなく、自分を無力、無価値な者と認めて、主の前にへりくだっている。第三に彼の信仰。彼は最初は「五十人の正しい者がいれば」と言い、次に四十五人、四十人、三十人、二十人、十人とその人数を少なくして行った。しかし、その人数が少なくなればなるほど、主の憐みと愛に対する彼の信仰はますます大きくなって行った。私達ならどうだろうか？あきらめずに、人々の救いの為に祈り続ける者になれますように。 4. 主の愛と忍耐。最も注目すべきは「主の愛と忍耐」！主はアブラハムが人数を少なくするたびに、「その町全部を赦そう」と言われた。主は決してアブラハムをとがめず、愛と忍耐をもってその執り成しを受け入れられた、そこまで信仰と愛をもって祈る祈りを喜ばれた。他にも真剣な執り成しの祈りが記されている。モーセは、偶像礼拝に走ったイスラエルの民の為に罪の赦しを求め、「もしも、かまいませんなら、どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってください」（出32：32）と祈った。パウロは、いつも同胞イスラエルの救いのために心を痛めていたが、「もしできることなら、私の同胞…の為に、この私がキリストから引き離されて、のろわれた者となることさえ願いたいのです」（ローマ9：3）と語っている。イエス様は、十字架の上で祈られた。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです」（ルカ23：34）。イエス様の執り成しのおかげで、私達の罪は赦された、そして赦され続けている。

Ⅲ 執り成しの祈りをさせていただいて今ある私達のその大きな恵みへの応答

主の教会に必要なのは祈りである。お互いの為の祈り、そして教会の為の祈り、まだ救われていない人々の為の祈りである。この5月からスタートする御言葉の恵みを「分かち合い祈り合う」グループが祝福されますように。教会の祈りが増し加えられ神の祝福が注がれ続けますように。「絶えず目を覚まして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。また、私が口を開くとき、語るべきことばが与えられ、福音の奥義を大胆に知らせることができるようにも祈ってください」エペソ6：18, 19。「真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた…主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」（使徒16：25, 31）の御言葉を信じて主を伝え、祈り合いましょう。「互いのために祈りなさい。義人（神に罪を告白して赦され神と正しい関係の人）の祈りは働くと、大きな力があります」ヤコブ5：16。「主は…忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられる」Ⅱペテロ3：9。祈りを神は聞いておられます。祈り合いましょう。